

上山市立地適正化計画（案）についてのパブリックコメントの

実施結果及び市の考え方について

1 実施結果

（１）意見募集期間 令和３年８月２３日（月）～令和３年９月１５日（水）

（２）提出方法別の提出人数及び意見数

提出方法	提出人数（人）	意見数（件）
郵 送	0	0
F A X	0	0
メール	1	3
持 参	0	0
合 計	1	3

2 意見の概要と市の考え方

No.	意見の概要	市の考え方
1－1	防災について 居住誘導区域は浸水想定深３メートル以下の地域のため、早急にリスク回避の手立てが必要と考えます。	居住誘導区域の浸水深３メートルは、一般的な家屋の２階床下に相当するとされており、直上避難が可能である高さと考えております。 上山市では、市街地の大部分が浸水想定区域であることから、居住誘導区域から除外することは現実的ではないと考えますので、災害に対する備えをして頂くことが重要と考えます。 浸水想定エリアについては、ソフト対策として災害時避難体制の強化や防災意識の向上につながる取組、ハード対策として短中期的には須川・前川などの河川浚渫事業、長期的には須川・前川・荒町川などの河川改修事業の促進に向けて県へ要望してまいります。 荒町川については、事業再開に向けて河川管理者である県と協議を行っており、来年度に調査を実施できるよう進めてまいります。
1－2	NPO法人かみのやまランドバンクへ丸投げとしか思えないまちづくりでは困ります。	上山市とNPO法人かみのやまランドバンクは連携協定を締結しております。第２期上山市空家対策計画に基づき、ランドバンクエリアを基本に空き地・空き家の再生に取り組み、役割を分担し共にまちづくりを進め、中

		心市街地活性化を目指してまいります。
1 - 3	コンパクトシティを造り、住みやすい、また来なくなる上山市を目指す上での対策がわからない。	このまま市内一律に人口密度が低くなった場合、公共交通や商業、金融などの施設を利用し支えていた方々が、その周りに居住しなくなってしまうため、公共交通サービス水準の低下や、生活利便施設が撤退してしまう恐れがあります。また、拡大したインフラ施設全てを維持管理していくことが難しくなってくる時代が来てしまいます。 そこで公共交通便利地域や生活利便施設の周辺の人口密度を維持していくことにより、都市機能の維持や、効率的なインフラの維持管理による持続可能なまちづくりを進めていく必要があると考えます。 今後は、都市構造再編集中支援事業等を活用しながら、かみのやま温泉駅を中心とした周辺部の質の向上を図ることで都市の魅力を高め、一定の人口密度を保つ区域を設定し、現在ある店舗等を維持し、持続可能なまちとなるよう進めていきたいと考えております。 今後の対策として、駅西側での大きな宅地開発は難しい状況ですが、道路空間の美装化や河川空間の再整備、ファサード改修事業等による風情ある街並みを形成しながら、民間事業者等とも連携し空き地・空き家・空き店舗の活用を進めてまいります。 また、駅東側については、大規模な低未利用地がまとまっていることから、民間事業者と連携し、主に子育て世代をターゲットにした宅地整備のほか、長清水公園の再整備、新たな店舗等の誘導を進めてまいります。 本計画は持続可能なまちづくりを進めていくための手段であり、各課連携のもと魅力あるまちづくりを進めるため、社会情勢に合わせた計画の見直しも行なってまいります。 そのために、まちづくりの枠組みを市として示し、市民の皆様のまちづくり活動が活発化することで、よりよい上山市が形作られると考えます。